

常に時間がかかり、短時間では多くのものが見られない、奈良県にはおいしい食べ物が少ない、夜遅くまで営業している店が少ないなどと言われてい

ます。
私たちの奈良育英高等学校は、奈良市の中心に位置しています。学校からは若草山、大仏殿が一望でき、素晴らしい歴史に囲まれた地で学校生活を送れることを誇りに思っています。ところが、テレビで流れる奈良の情報はマイナスイメージのものも多く、非常に残念に思っています。私たちの学校では、授業の一環として、東大寺に行き、外国人観光客に英語でガイドをするという取り組みをしています。その取り組みを終えた先輩方に話を聞くと、東大寺を訪れる外国人観光客は、歴史や自然に触れることができ、大変よかった、実際建築物を見て、その由来などの話を聞くことができ、非常に興味深かったなどと話されていたということです。ですが、法隆寺にも行きたかったけれど、遠くて今回は行けなくて残念だともおっしゃっていたようです。これらの声を聞き、私たちは、奈良に来ていただいた全ての観光客に満足していただけるためには、観光地の周辺環境や交通手段を今以上に充実させる必要があると思います。

そこで、知事に質問させていただきます。

私たちは、世界に誇ることでできる古都奈良の魅力を多くの人に伝え、多くの人に感動してもらいたいと考えています。この素晴らしい奈良県の魅力をどのように生かして観光地として発展させていくのか、知事の考えをお聞かせください。

○浦岡議員

15番、浦岡直子です。学校外でスポーツを楽しめる環境づくりについてご質問させていただきます。

奈良県は、体力低下が非常に大きな課題となっています。平成24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を文部科学省のホームページで確認した結果、奈良県の中学生は全国平均を大きく下回り、第44位という残念な結果が出ています。小学生に関しては、第19位という比較的上位を保っているのが現状のようです。



(奈良育英高等学校 浦岡直子議員)

体力低下の原因は、外遊びをするための時間、空間、仲間の減少により、身体活動量の低下が起こるからだと言う専門家もおられます。また、外遊びが減れば運動する機会が失われ、その結果、骨格や筋肉、さらには運動感覚が発達せず、身体能力の減退や肥満が生じるとともに、けがや病気をしやすい体になると考えられると言われています。近年の携帯電話、インターネットの普及や、テレビを見たりゲームをしたりする時間が増加していることで、外で遊ぶ時間が減っていることは、親の世代と比べても明らかです。

私たちも、運動部で活動している人は別ですが、中学生や高校生と成長するにつれて、外に出て公園などで体を動かす機会が少なくなっています。私たち高校生は、運動部に所属していれば、体育の授業以外に部活動で体を動かすことは可能ですが、学校外に目を向けると、運動部活動をしていない人たちをはじめ、みんなが気軽に体を動かす環境が少ないのが現状です。

そこで、知事に質問です。

運動部活動をしていない中学生や高校生をはじめ多くの人たちの体力向上のために、気軽に体を動かしたりスポーツを楽しめる環境づくりについてどのように考えられているのか、お教えてください。

○寺西議員

16番、寺西礼。医師の心のケア・サポートについて質問させていただきます。

現在、奈良県病院名簿に登録されている病院数は75あり、奈良県ではたくさんの医師の方々が勤務されています。医師の仕事というのは、健康に問

題のある人を膨大な知識から多角的観点で判断し、診察及び治療をするというものです。そのような仕事をされている医師は、日々、肉体的にも精神的にも大きなストレスを抱えて仕事をしておられると思います。



(奈良育英高等学校 寺西礼議員)

実際に、ストレスを強く感じていると答えた医師は13%、感じるが多いと答えている医師は54%というデータもあります。そのような状況が加速すると、みずからの職場である病院の環境が要因となって、健康に問題を持つようになってくると思います。全国医師ユニオンなどが約2,000人を対象に行ったアンケートによると、医療機関で働く勤務医の47%が健康に不安を覚えたり、病気がちだったりすることがわかっています。実際に、そうなる仕事に支障を来してしまい、頑張っている仕事を病気になることは、医師の努力が報われず、非常にかわいそうです。

私たちは、このような状況にならないためにも、医師の心のサポート・ケアと、病院の職場環境の改善が必要とされると思います。そして、医師が健康に問題を来すことのないような病院づくりをすることで、医療の振興にもつながると思うのです。これらの問題を解決するためには、まず各病院単位や、それ以外でも何らかの改善策を立てなければならぬと思います。

そこで、知事に質問です。

県単位でできる医師の心のサポート・ケアができるような病院の職場環境づくりについて、何か考案されておられるのでしょうか、お教えてください。

○荒井知事

奈良育英高等学校の議員の方々のご質問にお答えを申し上げます。

まず、柏木議員のご質問でございますが、奈良県の観光地としての発展の方向、方策のご質問でございます。

奈良県は、議員ご指摘のとおり、多くの観光資源に恵まれていると思いますが、それを来訪者に楽しんでいただく、おもてなしの気持ちと技術が不足しているように思っております。



その前に、まず奈良の価値、奈良の観光の価値、資源の価値、値打ちを我々自身がよく知っているのかどうかという問題がございます。奈良の魅力、値打ちは何だろうかということですが、奈良県は、日本国家が成立した土地でございます。仏教を受容したという土地でございます。また、日本の歴史上比類のない、例のない国際性を有した場所でございます。国家の始まり、仏教の受容、国際性というのは、奈良の歴史をあらわす、とても大事な特徴だと思います。奈良の価値は、このような歴史そのものが大きな価値であると思います。その歴史の意味を発掘、発見して、発信する、訪れた人によくその魅力を味わってもらおうという取り組みが極めて重要だと思います。

このような取り組みの必要性に目覚めましたのは、平城遷都1300年祭の催しからでございます。訪れる方が奈良の歴史の魅力に引かれて、日本の方のみならず外国の方々、大使館、大使の方々が大勢訪れられて、奈良の歴史をよく彼らから逆に教えてもらう経験もございました。そのような経験がございましたので、引き続きまして昨年からは、古事記、日本書紀、万葉集に代表されます書物の歴史

素材を活用した記紀・万葉プロジェクトの展開を行っております。

また、県内には遺跡が多くございますが、そのような中で歴史、その意味を十分に書いてある解説はあまりない、無味乾燥な案内書だと言う人も多くおられます。その遺跡あるいは文化財の背景にどのような社会状況、ドラマがあったのか、どのような当時の人々の物語があったのかということを知りやすくしてくれるのであればよいのというような声をたくさん聞くところでございます。奈良の歴史や文化は、知れば知るほど魅力的でございます。わかりやすい解説を見ながら、観光客が歴史文化資源を回るということになれば、結果として滞在時間の延長にもつながるものと思います。現実には、奈良の歴史や文化のことを我々奈良の人があまり知らない、逆によく勉強された来訪者の方々のほうが、奈良の歴史や文化に詳しいということもございます。奈良の歴史をもっと県民の我々がよく知って、それを来訪者にお伝えする、このような観光スタイルを提案し、実施していきたいと考えておるところでございます。

次に、浦岡議員のご質問は、スポーツの環境づくりでございます。

体力が低い奈良県の生徒さんということのご指摘がまずございました。皆様はどうでしょうか。体力に自身がおありでしょうか。小さいころに体力を養わなければ、大きくなってもすぐに体力はできないということも言われております。また最近では、大人の体力も健康の維持増進に必要でございますが、若い人はスマートフォンやゲームに時間をとられてしまい、スポーツをする時間があまりなくなって心配だという声も聞きます。皆様はどうでしょうか。スポーツは人の生涯を通じて楽しむべき、とても大事な活動だ、スポーツは人生の友だというふうに思いません。

本年3月に、県ではスポーツ推進計画を策定いたしました。いつでも、どこでも、誰でもスポーツに親しめる環境づくりということに取り組んでおります。その中でも、総合型地域スポーツクラブというのは大事なことだと思います。学校スポーツも大事ですが、学校は卒業するとそのクラブにはなかなか行けない。しかし、地域のクラブには、学校を卒業

してもその地域におられる限り、ある一定の年齢では参加ができるというタイプのスポーツクラブですが、そのようなスポーツクラブの充実を図っております。

また、運動習慣が小さいころから必要だ、大切なことだと思いますが、学校グラウンドの芝生化や、外遊びの楽しさも重要だと思います。皆様の高校は芝生化されておりますでしょうか。されていないとすれば、県立高校におきましては県の責任になります。答弁はこれ以上のことは申し上げませんが、大事だということを申し上げておきたいと思っております。その中でも、トップアスリートに触れられてスポーツがすばらしいと思われる方も出ておりますし、また、教えてもらってスポーツが好きになったということもありますので、そのようなスポーツを始めるきっかけづくりを県ではしようかと思っております。

また、身近なスポーツ機会ということで、ジョギング、ウォーキングというのが大事でございます。スポーツ環境、どこでもというのはなかなか県だけでは難しいのですが、県では、橿原公苑ジョギング&サイクリングステーションという1つの拠点をつくりました。また、来年の7月には、大和郡山市のところで、プールのほかフィットネススタジオも備えた、まほろば健康パークというのがオープンいたします。1つのスタイル、健康・スポーツの中心地というものを県でつくっていききたいと思っております。

寺西議員のご質問は、医師のメンタルなケアも含めた職場環境づくりということでございます。大変詳しい資料に、考えに裏づけられたご質問でございます。

勤務環境は、医師の方のみならず大変重要でございますが、ワーク・ライフ・バランスということでございます。皆様ではスタディ・ライフ・バランスということになりますが、ワークとライフのバランスをどのようにとるかは、これからご勤務されるととても重要なこととなります。その中でも医師の職場環境というのはとても大事でございます。寺西議員のお父様はお医者様でいらっしゃいますのでしょうか。大変お詳しい情報だと思えました。医師の勤務環境は過酷であると思っております。お医者さんが心身に大きなストレスを抱える現状にあるということも認識をしております。医療機関において働きやすいお医者

さんの職場環境づくりは大切なことだと思って、頑張っていきたいと思っております。

具体的には、医師の過重労働解消のために、仕事と家庭の両立ができる勤務体系を弾力的にすることや、宿日直勤務の見直しなど、勤務医の就労環境を改善する取り組みを行う病院を支援することを始めております。もしお父様がお医者様であれば、宿直医で泊まり込みで何日か帰ってこないというのが常態化しておるわけでございますので、お医者さん自身がよく休んでいただくということが大事だと思います。

また、女性のお医者さんがふえておられますので、女性がお医者さんになられたときの職場環境整備も大事かと思っております。例えば病院内保育所への支援ができるとか、女性が人生の中で子育てのとき、介護のとき、いろんな身近な悩みが発生したときのご相談ができるネットワークをつくる必要があるかと思っております。

医師の偏在、医師の不足が長時間労働の一因となっております。一部の医師の方にしわ寄せが行っているわけでございますが、県では、奨学金制度や臨床研修医制度を大幅に拡充いたしまして、お医者様の生涯の設計をよくするような努力をしております。全国的に医師の環境整備は重要な課題でございますが、奈良はその先端に行くモデルをつくれるような意気込みで頑張っていきたいと思っております。もしお父様がお医者様であれば、そのような意気込みであったと、よろしくお伝えしたいと思います。

ご質問ありがとうございました。

○西川議長

しばらく休憩します。

午後2時33分 休憩

午後2時46分 再開

○大村議長

休憩前に引き続き、会議を開きます。



(畝傍高等学校 大村飛翔議員)

次に、吉野高等学校、19番、藤井智瑛議員、20番、小山祥子議員、21番、六辻正美議員に発言を許します。

○藤井議員

奈良県立吉野高等学校、19番、藤井智瑛です。私は、林業及び木材産業の振興についてお聞きしたいと思います。



(吉野高等学校 藤井智瑛議員)

私は、吉野高校で森林について学習しています。授業で、林内作業の効率化を図るため、森林内に作業用道路を高密度で整備する高密度路網のことを知りました。林業の現状について調べてみると、日本の人工林の約9割が戦後植林されたものであり、奈良県でも杉、ヒノキが伐採時期を迎えています。

現在、吉野地方ではヘリコプターによる集材も行われています。樹齢100年を超える木材だと採算もとれると思いますが、間伐材等の小径木を搬出するとなると収益が見込めず、山で切り捨てられたままになっています。十分管理されていない放置林もあります。健全な森づくりは環境保全にもつながり、林業が盛んになれば雇用も創出できます。私は、木材の搬出コストを低減させ、労働負荷を軽減できる林道や高密度路網の整備が、最も重要な林業再生の鍵だと確信しています。ところが、本県の林道の開設実績は、平成22年には1,331キロメートルで、1ヘクタール当たりの林道密度は、全国平均の5.3メートルに対し、本県では3.2メートルしかありません。また、搬出する作業用道路が整備されても、吉野林業の伝統技術で育てた杉、ヒノキの需要が向上しなければ、魅力ある林業の再生にはつながらないと思います。

そこで、知事にお伺いします。

林道や高密度路網を整備していく計画と、吉野杉、ヒノキの魅力を全国にアピールし、県産材の需要拡大に向けた施策についてお聞かせください。

以上で質問を終わります。

○小山議員

20番、小山祥子です。私は、南部地域における医療体制の充実についてお聞きしたいと思いません。



(吉野高等学校 小山祥子議員)

私は、中学1年生のころから、全国規模のボランティア団体であるNPO法人NLAにスタッフの一人として参加しています。その活動の中で、昨年、県南部の養護学校に車椅子を寄贈させていただきました。

した。

この経験から、私は奈良県の医療や福祉の体制に関心を持ちました。吉野高校がある南部地域は、県内でも高齢の方の人口割合が特に多い地域です。奈良県南部振興計画によると、北部の高齢者の人口比率が23.0%であるのに対し、南部は31.8%と示されており、その差は歴然です。さらに、南部の医療体制について調べてみると、現在、南和広域医療組合という組織があることを知りました。ここが南部の公立3病院の役割を分担して医療を行う検討をし、へき地の診療所の医師不足打開のために研修プログラムを開講されていることなどは、確実に発展へとつながるはずですが、しかし、より充実した体制を整えるため、例えば組合に私立の個人診療所をさらに加えることで、公立病院と医療分野での情報共有や患者受け入れを分担することや、地元の医師及び看護師雇用の需要供給まで管理できるような機関を設置するなど、より踏み込んだ方法を実施するべきではないかと思えます。南部の医療は南部で支える、そのためには、こうした民と官のコラボレーションや人材の地産地消の実現が不可欠なのです。

そこで、知事にお伺いします。

奈良県の南部地域において、こうした、南部の医療は南部で支えるための施策をどのようにお考えでしょうか。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○六辻議員

21番、六辻正美です。木質バイオマスの活用を通じた林業の振興について、知事にお尋ねします。

吉野高校では、一昨年、おがくずからつくったペレットを燃料とするストーブを校内のビニールハウスに設置し、廃材を利用したペレット性能比較試験を実施してきました。その結果、冬季においても必要十分な室温を保つことがわかりました。現在、私は級友3人と、このペレット燃料の改良に向けた調査研究を行っています。木質資源は県南部地域に豊富に存在しており、そこから大きなエネルギーを創成することができれば、それはすばらしいことだと

思います。



(吉野高等学校 六辻正美議員)

昨年の高校生議会で知事は、本県の電力需給率が18.9%であり、今後はバイオマスも有望とおっしゃいました。他府県では、既に木質バイオマスを利用した発電施設を建設し、大きな効果を上げているとマスコミでも取り上げられています。本県でも近い将来、大淀町に木質バイオマス発電施設が建設されると聞きました。これはとても夢のある話で、エネルギーの地産地消が叫ばれている中、現在のエネルギー社会の要望に合致するものであり、今後の発展が期待されます。

そこで、知事にお伺いします。

林業は、本県南部地域の振興にとっても大きな役割を担っていますが、木質バイオマスの活用を通じた林業の振興について、知事のご所見をお聞かせください。

以上で質問を終わります。

○荒井知事

県立吉野高等学校の皆様から質問がございました。とりわけ南部の事情に関するご質問が多くございました。

まず、藤井議員のご質問でございますが、林業・木材産業の振興についてということでございますが、とりわけ高密度路網に着眼された点はすばらしいことだと思います。

高密度路網は、単位面積当たりの林道の延長、林道がどれだけ限られた面積の山に多くあるか、その密度のことでございます。健全な森づくりのための林道や作業道の整備は鍵になる事項だと思います。路網と言われるものでございますが、木材

の生産のための、搬出のための重要な基盤であるわけでございます。高密度路網を整備することについては、県も積極的な取り組みを始めております。平成23年度より、丸太組みなどを利用した壊れにくい構造の奈良型作業道を、1ヘクタール当たり50メートル以上の高密度で整備する事業を開始いたしました。奈良型作業道と申しますのも、奈良は大変急傾斜の山地が多いので、その急傾斜において作業をしやすくするような多少狭くても動きやすい路網と、その上に乗る小型の搬出機の組み合わせのことでございます。この奈良型作業道整備計画によりまして、今年度末には約62キロメートルの路網が整備される計画になっております。また、その路網が集まって路線、林道になるわけでございますが、県及び市町村により、川股天辻線をはじめ8路線の整備を進めているところでございます。このように、高密度路網を末端の中心の基盤として林道の整備、それに搬出の効率化を図っていきたくと考えております。



それとともに、林業の振興のためには、県産材の需要拡大に向けた取り組みも重要でございますので、きょうお越しになった県庁の玄関ホールも、最近県産材で木質化を図って大変好評を博しているものでございます。大変きれいな雰囲気になりました。

また、奈良の木材も、首都圏や国内のハウスメーカーの方たちにも販売の促進の働きかけを行っております。木材の中に、修景材と言います飾りになる木材だけではなく、構造材といいます、柱の中心になるような木材も組み合わせで売り込みを図っているところでございます。この11月には東京で、私自身がセールスに出かけようと思っております。

ころでございます。

小山議員からは、南部の医療提供体制についてご質問がございました。南部の医療は南部で支えるという目標のために、どのような施策を展開するのかということでございます。

南部の方々には南部以外の地域で治療を受けられる方が多くございます。4分の1ぐらいは外で受けておられます。南部の医療サービスが十分でないということも大きな理由でございます。とりわけ高齢者の多い南部の地域の方々にとっては、南部で医療体制を充実することがとても重要でございます。

県では、南和地域の全ての市町村とともに南和広域医療組合という組織を設立して、その広域組合では1つの病院群を、組織をつくることにいたしました。1つの病院群の組織の中では、現在あります3つの公立病院、県立五條病院、吉野町国民健康保険吉野病院、大淀町立大淀病院の3公立病院の機能再編による医療体制の充実に取り組んでおります。3つのうち1つを、救急医療を十分に行える新病院として大淀町に建設することにしておりますし、五條市と吉野町にある病院は、病症の安定した患者のための地域医療センターとして改修工事をしていきたいと思っております。

各病院には各症状に応じた切れ目のない医療を提供する必要があります。切れ目のない医療というのは、症状の変化に応じて適切な治療が提供されるシステムのことでございますが、そのためには、3病院のほか、へき地診療所も大事でございます。へき地の診療所と病院の連携、役割分担が必要だと思います。

また、そのような医療の提供のためには医師の確保が重要でございますが、特にへき地の診療所におきましては自治医科大学という学校の卒業医師を派遣しておりますが、先ほども申し上げましたように、県では医師の奨学金制度を大幅に充実いたしまして、卒業された方々に南和の医療を担っていただくような派遣のシステムを考えております。来年度より、県立医科大学の中で県立医科大学医師派遣センターというものを設立していただきまして、南和の病院をはじめとする県下の公立病院などから医師の派遣要請があれば、適切に応じることの

できるような仕組みをつくることにしております。病院の建物の整備のほか、医師の派遣システムを整備することを通じまして、南和の医療の充実を図っていききたいと思っております。

もう1つ大事なものは、病院に通院される方の移動手段の確保が重要でございます。移動手段の確保につきましても、どのようなバスを運行するのか、あるいは乗り合いのサービスをするのか、地元の市町村の人たちと協議を始めているところでございます。

次に、六辻議員のご質問は、木質バイオマスの活用というテーマのご質問でございます。

木質バイオマスの利活用につきましては、林地に残されました多くの未利用木材を有効活用できることや、現下の厳しいエネルギー情勢を踏まえますと、小さな量ではありますが、供給電力や熱源の供給になるということでございますので、有意義な取り組みだと思っております。

今年度は、県有林を利用した木質バイオマスの製造・利用に係る実証実験を行うことにしております。実証実験というのは、ビジネスとして会社をつくる以前に企業として成り立つやり方はどのようなものであるのか、もし問題があるとすれば、どのようなところを改善する必要があるのかということ、実際の工場の様子を考えながら実験をするものでございます。県がそのような実証実験に補助をするということでございます。現在、県有林からの原材料木材の搬出が高い値段になっておりますので、そのコスト低減の試みをしております。また、木質バイオマスを燃料にするための工場、また、燃料を効率的に燃やすためのストーブなど、どのようなものがあるかを実証実験で進めております。そのような結果を分析し、また公表もして、利活用のモデルを提案していきたいと思っております。

このような実証実験という取り組みをまず進めまして、木質バイオマスの利用の拡大を図っていききたい、ひいては、南部の木材の利用を通じた地域の振興、地域の活性化につなげていきたいと考えているところでございます。

ご質問は以上でございました。ご質問ありがとうございました。

○大村議長

次に、大宇陀高等学校、24番、乾勝海議員、25番、下田貴義議員、26番、森田凌平議員に発言を許します。

○乾議員

奈良県立大宇陀高等学校、24番の乾勝海です。学校では、生徒会長をしております。みんなからは、せんたくんと呼ばれています。



(大宇陀高等学校 乾勝海議員)

本校は、ことし創立90周年の節目を迎え、11月には記念式典を行います。そのような記念すべき年に奈良県高校生議会において、知事、教育長及び警察本部長に質問や提言ができる機会を与えていただき、誠にありがとうございます。

それでは質問に入ります。私からは、関西広域連合への参加について、荒井知事にお伺いします。

平成23年2月定例県議会で知事は、関西広域連合に参加することになれば、奈良県の上に関西広域連合という組織をつくることになり、いわゆる屋上屋を架すことになる。その結果、大きな行政組織を持ったことにより生じる経費の無駄遣いや、業務を行っていく上での責任の所在が不明確であるとして、設立された当初から、参加を見合わせたと答えられています。

私たちの学校は、大和高原南端部の自然環境豊かな宇陀市にあります。奈良県では平成24年10月に、宇陀市、山添村、曾爾村及び御杖村を対象地域とした奈良県東部振興計画を策定して、東部地域の振興や観光など、さまざまな分野にわたって取り組みを行っていただいています。今後、奈

良県が関西広域連合に参加した場合、結果として、私たちが学んでいる地域が取り残されていくような気がしてなりません。

そこで、お伺いします。関西広域連合という大きな組織に参加するより、身近な個別の課題に対応できる、地域間の連携を密にしたほうが意義深いと考えますが、知事のお考えを改めてお聞かせください。よろしくお願いします。

ご清聴ありがとうございました。

○下田議員

25番、下田貴義です。私からは、よりよい学校生活を送るためには、県立学校のユニバーサルデザインの推進が重要との観点から、その取り組みについて、教育長にお伺いします。



(大宇陀高等学校 下田貴義議員)

私たちが通う学校は、大宇陀の街の中にあり、地域の方にとっては身近な公共施設であり、そして、勉強や部活動などに一日を送る私たちにとっては大切な学習の場です。私たちは、学校という場でたくさんの人たちと交流しながら学んでいます。ですから、学校が誰でも利用しやすいようにバリアフリー化されることは、私たちが学んでいくためにとても大切なことだと考えています。

人は皆、平等です。体にハンディを持った人も、障壁を取り除くことにより、よい学校生活を送ることができます。特別支援学校への進学もありますが、それを言うと、その人の行ける学校はかなり減ってしまいます。体の不自由な人にも優しい学校をふやしていくことは、たくさんの人が学ぶ、よい学校生活への第一歩になると考えます。そして、体の不自由な人が快適に過ごせる学校になれば、全ての利

用者から見ても、よい学校になると思います。

そこで、富岡教育長にお伺いします。

県立学校の施設をバリアフリー化にしていくことは、障害者に限らず、年齢や性別、個人の能力等、人が持つそれぞれの違いを超えて全ての人が利用しやすいユニバーサルデザインの推進にもつながるものと考えますが、教育長のお考えをお尋ねします。

ご清聴ありがとうございました。

○森田議員

26番、森田凌平です。私からは、犯罪のない明るい社会づくりについて、警察本部長にお伺いします。



(大宇陀高等学校 森田凌平議員)

私たちが住んでいる奈良県は、犯罪が少なくとてもよいところだと思っています。これも日ごろから警察官の方々が、県民が安全に、そして安心して暮らせるように、パトロールをはじめとした犯罪防止に取り組んでいただいているからだと思っています。ありがとうございます。

また、ニュースなどでも、奈良県で事件が発生したというのはあまり聞きませんので、奈良県で発生したというのを聞くと驚きます。それは、県民誰もが奈良県は平和であると認識しているからだと思っています。しかし、完全に犯罪のない明るい社会にはまだなり切れてないように思いますので、パトロールや職務質問などを強化して犯罪を未然に防止してほしいと思います。

6月17日、奈良テレビのニュースで、奈良県警察本部玄関前でメロディーパトロールの出発式の様子を見ました。このパトロールは、平成24年12

月に私たちの学校がある宇陀市の宇陀警察署で発足し、その成果をもとに奈良県全域で実施されるようになったと聞きました。

そこで、原山警察本部長にお伺いします。メロディーパトロールの目的とその効果についてお聞かせください。

ご清聴ありがとうございました。

○荒井知事

県立大宇陀高等学校の議員の皆様からご質問がございましたが、私に対しましては、乾議員のご質問がございました。関西広域連合への参加についてのテーマでございます。難しいテーマをよく取り上げていただきました。

議員お述べのとおり、関西広域連合のような大きな組織に参加すると、住民から遠いところで行政が行われ、県の東部や南部、乾議員のおられる大宇陀のような地域にまで、なかなか行政の目が行き届かないのではないかとこの心配があります。私もそのように思っております。



行政は住民の身近なところで行う、とりわけ地方行政の分野はそのように考えられてきました。地方分権を行うのはそのためでございます。国の持つております権限を分権するということは、各地域の身近なところで行うようにということでございますが、住民自治と言われる分野でございます。住民の身近なところで行うの主体があって、住民の皆様が働きかけやすいようにするというところでございます。道州制も同じでございますが、遠くで大宇陀に関する行政が行われると、身近さがなくなってしまうという懸念がございます。例えば、大宇陀高等学校のグラウンドの整備、校舎の整備などは、今

は県の予算でございますが、それが道州の予算あるいは広域連合の予算になりますと、道州、広域連合の州都で決められることになりまして、情報を伝えることはより難しくなりますし、大宇陀高等学校だけでなく、ほかの地域との広い情報の調整が要するというのが課題でございます。そのような課題は、議員と共有するところでございます。

また、そのような組織をつくるほかに、関係が深い府県と積極的に連携するという方策もございます。県では、個別の課題ごとの連携は進めております。和歌山県、三重県と一緒に、3県で観光振興に取り組んだり、熊野川という共通の河川の整備について取り組んだり、また、これは関西広域連合や和歌山県との間で、ドクターヘリの共同運行に関する協定を行ったりしております。また、広い連携の例としては、福井県や山形県、島根県など遠い地域にあります知事さんと、ふるさと知事ネットワークという連携の組織をつくって、毎年2回ほど集まって勉強しながら、それぞれの地域の活性化に取り組んでおりますし、連携の事業も取り組みを行っているところでございます。

いろんなやり方はあろうかと思いますが、奈良県の実情を踏まえながら、奈良県の発展のために、我々行政の立場の者が研さん、努力をするということが極めて必要なことだというふうに考えておるところでございます。

ご質問ありがとうございました。

○富岡教育長

25番、県立大宇陀高等学校、下田議員のご質問にお答えいたします。

私には、県立学校のユニバーサルデザインの推進について、県立学校の施設をバリアフリー化していくことは、全ての人々が利用しやすいユニバーサルデザインの推進にもつながるものと考えているが、どうかのお尋ねでございます。

平成14年12月に閣議決定されました障害者基本計画や、平成15年4月施行の高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律の改正により、学校施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの観点からのまちづくり等が推進されております。また、文部科

学省でも、平成16年3月に学校施設バリアフリー化推進指針を定めた上、各学校設置者である県や市町村に対し、学校施設のバリアフリー化を迅速に進めるよう要請を行っているところでございます。



これらのことから、本県ではこれまで順次、県立高等学校施設のバリアフリー化を進め、平成25年5月1日現在で、障害者用トイレ、スロープ、廊下、階段の手すりは全県立高等学校で、また、点字ブロックや自動ドアも必要箇所に設置してきたところでございます。もちろん特別支援学校は、必要に応じてエレベーターも含めた整備を図ってきております。今後も、多様な人々が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を念頭に置きながら、引き続き、各学校の実情に応じたバリアフリー化整備を進めていきたいと考えております。

ご質問ありがとうございました。

○原山警察本部長

26番、県立大宇陀高等学校、森田議員のご質問にお答えをいたします。



私には、メロディーパトロールの目的と効果についてお尋ねございました。

県民の方々が警察に何を一番望んでいるか、こ

これはパトロールの強化でございます。そこで、県民の皆様へ安全・安心をお届けする施策の1つとして、昨年12月以降、宇陀警察署を皮切りに、パトカーでメロディーを流しながらパトロールをするという、いわゆるメロディーパトを実施しております。県民の方々から見える、聞こえる、そういう効果的な活動として、警察官が身近でパトロールをしているという安心感、これをお届けし、一方、犯人からは犯行を思いとどまらせる、そういう効果もあると信じて、やっております。

なお、使用するメロディーは、子どもさんの被害防止啓発ソングである「いかのおすし一人前」、この曲は奈良県警察が独自に作曲、編曲しております。これをさらにオルゴール調にアレンジしたもので、これに各種犯罪や交通事故防止のための広報啓発のアナウンスを織りまぜさせていただいております。

それに、夜間のパトロールのときには、自宅周辺に異常がなかったことなどをお伝えするパトロールメモ、簡単なメモですが、パトロールメモを投函させていただき、安全・安心をお届けする施策を進めさせていただいております。県民の方々からも一定の評価を受けていると認識しております。

今後もより一層、犯罪抑止あるいは交通事故防止に努め、日本一安全で安心して暮らせる奈良県の実現、これを目指してさらに努力していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力、よろしく願いを申し上げます。

ご質問ありがとうございました。

○大村議長

時間がありませんので、これをもって、県政に対する質問を終わります。